2025 年度　自己点検･自己評価

評価項目の達成及び取り組み状況

適切　4	ほぼ適切　3
やや不適切　2	不適切　1

1. 教育理念･目的･期待する卒業生

項目	小項目		概要/取り組み	評価
理念･目的･期待する卒業生像	1	理念･目的･期待する卒業生像は、明確に示されているか	理念･目的･卒業生像は定められているか、専門職業人を育成することを目的としている	4
	2	期待する卒業生像は社会経済や地域ニーズに適合しているか	地域に貢献する人材育成を教育目標として掲げている。また、教育課程の策定において、地域社会のニーズに適合するようにディプロマポリシーを掲げている	4
	3	理念等の達成に向け特色のある教育活動に取り組んでいるか	教育理念に基づいたカリキュラムを編成し、理念達成を目指した看護教育に取り組んでいる。講義及び看護技術、臨地実習では主体的に学ぶための授業方法に取り組んでいる	4
	4	地域社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか	社会の動向や地域社会のニーズに関心を持ち、地域社会に貢献しうる看護師の育成に取り組んでいる	4
	5	理念･目的･期待される卒業生像、学校の特色等を学生･保護者に周知しているか	教育理念･教育目的･卒業生像や専門職業人の育成として、方針を入学前オリエンテーション、保護者会にて学生･保護者に周知している	4

2 学校経営

学校運営	6	理念に沿った運営方針を定めているか	教育理念･教育目標を達成するために学年目標や組織目標が定められている	4
事業計画	7	理念を達成するための事業計画を定めている	教育理念･教育目標を達成するために、行事及び学校運営計画や業務分担が定められている	4
運営組織	8	学校運営のための組織を整備しているか	学校運営委員会が設置されている。 会議規定に則り会議が開催され、情報共有や意思決定が有効に機能している 就労規則に人事･給与に関する規定が整備してある 職員数が指定規則通りである	3.2
情報システム	9	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っ	教務システム、Cloud、コミュニケーションツールを活用し学生の成績管理、個人情	3.8

		ている	報管理、授業や学生との連絡等において円滑に運用している。システムを活用することで効率良く情報を共有している	

3. 教育活動

目標の設定	10	理念に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	教育理念・教育目標に基づいて科目を設定し、順序性、位置づけが明確になっている。指定規則に則り「進度表」を作成し教職員に周知している	4
	12	修業年限に応じた到達レベルを明確にしているか	学年目標を設定し、教員は周知している 学生に学年目標を周知している	3.5
教育方法と評価方法	13	目的・目標に沿った教育課程を編成しているか、	カリキュラムは体系的に編成されている シラバスに学習目標、学習内容を掲載している	3.9
	14	キャリア教育に取り組んでいるか	キャリア教育のための授業科目を設定している。また、キャリア教育の視点に立った教育を意識している	4
	15	授業評価を実施しているか	すべての科目において授業評価を実施している 授業評価を学習内容や教育方法の改善に活用している	4
成績評価・単位認定	16	成績評価・単位認定が適切に運用されているか	成績評価・単位認定、進級・卒業認定に関する規定が整備してある 成績評価の方法をシラバスに明示してある 単位は会議をもって認定される	4
資格・免許取得の指導体制	17	資格・免許取得は教育課程上で明確に位置づけてあるか	看護師国家資格を得るためには、教育課程の全科目（臨地実習も含む）を履修することを入学時から明確に位置付けている 1 年次から看護師国家試験を意識し模擬試験を実施している 昨年の国家試験合格状況より、外部講師の国試対策講座、他校との学生間交流や教員の情報共有の場を設けた 自校の国試取り組みの課題が明確になった	4
	18	資格・免許取得の指導体制はあるか	クラス担当制を設け、3 年次の国試対策は年間計画に基づき実施している	4

			学習強化の必要のある学生を小グループに学習支援を行っている	
教員･教員	19	資格･要件を備えた教員を確保しているのか	教員養成講習会を受講、または教育系単位を4単位以上取得している 科目を担当することができる要件を備えた教員を確保している	4
	20	教員の資質向上のための取り組みを行っているか	科目を担当するために必要な研修の支援体制がある（形態機能･フィジカルアセスメント他） 初めて担当する科目の支援体制がある 研修や学会への参加、自己啓発などの支援体制は整備されている	3.7
	21	教員の組織体制を整備しているのか	教員間の連携や協働体制（領域や科目間）は構築されており、授業内容･教育方法の改善に取り組んでいる	3.0

4. 学修成果

就職率	22	就職率の向上が図られているか	就職支援体制がある 学生は看護師の資格を生かした進路を決定している（令和6年度卒 97%病院に就職） 自己の将来像を描き満足度の高い就職が実現できている	3.6
資格･免許の取得率	23	資格･免許取得率の向上が図られているか	看護師国家試験対策グループを中心に、100%合格を目指し、入学時から段階的に計画･実施に取り組んでいる 看護師国家試験の過去のデーターを管理し試験対策に活用している 外部講師による特別講座、愛北看護との合同学習の機会を設けた	3.9
卒業生の社会的評価	24	卒業生の社会的な活躍や評価を把握しているか	卒業生のうち実習施設に就職した者の活躍については概ね把握している。また、実習施設においては上司から直接、卒業生の評価を聴く機会がある。 実習施設以外に就職した卒業生の動向を把握している	3.8

5. 学生支援

就職等進路	25	就職や進路に関する支援体制がある	希望者には就職説明会やインターンシップの情報を提供している	3.9

			学生個々の相談や支援体制を整備しており、社会人入学者の就職に関しては早期から相談に応じている 進路を決定するために卒業生との交流がある 就職先から看護師募集に関する情報を得て、就職支援している	
休学や中途退学者への支援	26	休学者の把握、退学率の低減が図られる	学生の学習面や経済面を把握し、適宜情報共有し対策を考えている 退学率を低減するため、学生の個別的な関り（相談・学習支援）はできている	3.7
学生相談	27	学生相談に対する体制を整備している	クラス担当制チームをとっており、1 学年を複数で担当している。クラス担当により面接を行っている。	4
学生生活	28	学生の経済的な支援体制を整備している	高等教育の修学支援制度、日本学生支援機構による奨学金、医療機関による修学金など利用可能である。また、当校独自の成績優秀者授業料支援がある。 学生の状況に合わせて学納金の延滞や分納など柔軟に対応している	4
	29	学生の健康管理を行う体制を整備している	登校時に健康観察表を記入し健康状態を確認・指導している 学校保健安全法に基づいて健康診断を実施、健康管理の指導、助言をしている 季節性ワクチン接種を推奨している 医療関係者のためのガイドライン（第３版）を参考にワクチン接種を推奨している	4
	30	課外活動に対する支援体制を整備している	学生主体で「さくら会」の活動を行っている。ピアエデュケーションスキルの向上を図っている ボランティア活動を通して地域の自治活動に参加し、行政機関と連携することで地域ニーズを知り共生の精神を学べるように取り組んでいる	4
保護者との連携	31	保護者との連携をしているか	入学前オリエンテーション、入学式後の連絡会にて 3 年間の学生生活のこと、戴灯式後の保護者会でこれまでの学習状況や	4

			学生に関わる問題等の報告を行っている。 成績低迷者に対しては速やかに保護者と連絡を取り面談を行っている。 年初に保護者の連絡先の変更の有無の確認を行い、緊急時に連絡できるようにしている	
卒業生への支援	32	卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生は卒業と同時に本校同窓会に入会する 毎年 8 月上旬に卒業生の里帰りを実施し近況報告やメンタル支援を行っている。 卒業時のクラス担当が窓口になり卒業生と連絡が取れる状況にしている	4
社会人学生支援	33	社会人のニーズに合わせて支援体制の整備はできているか	社会人入試や一般入試(年２回)を行い広く社会人の受け入れを行っている。 社会人入学者に対しては、履修科目の認定制度を導入している 社会人のための学校説明会を催し社会人の在校生との交流を行っている	4

6. 教育環境

施設･整備	34	教育上の必要性に対応した施設･設備･教育用具等を整備している	施設･設備は設置基準に適合している 経年の老朽化に合わせて修繕を行っている 全館 Wi-Fi を設置し、各教室大型ビジョンを導入し、外部からの陽光の影響を受けないか環境に整備した。 学生が使用する教室や演習室、実習室の証明はLEDに変更し学習環境を整備した	4
防災･安全管理	35	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	本校は「尾北看護専門学校防災基本マニュアル」に基づき、有事に備えて教職員の役割分担を明確に定めている。毎年防災訓練を実施している。マイクロソフト Forms を使用し安否確認が可能となっている。	4
	36	学内における安全管理体制を整備しているか	学生･教職員全員「総合保障制度 Will 」に加入している。	4

			防犯対策とし出入り口に防犯カメラを設置指定している。 感染対策として、健康観察表を活用し健康管理指導を行っている。「日本環境感染学会医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版に則り対応している。	

7. 学生募集と受け入れ

学生募集活動	37	学生募集活動は適切に行われているか	オープンキャンパスを実施し、学校説明会を開催している。合同進学説明会に参加し、学校 PR 活動を行っている。学校訪問を実施している。 社会人の入学希望者のための学校説明会を実施している	4
入学選考	38	入学選考基準を適切に行っているか	入学選考基準を明確に定め、入試委員会に置いて適切に合否判定を行っている	4
学納金	39	学納金は妥当なものになっているか	学校運営費は、愛知県からの補助金、愛知県医師会からの補助金、授業料、雑収入がある。不足が生じれば尾北医師会からの補填で運営している。 学納金は募集要項に掲載したうえで、学生募集を行っている。	4

8. 財務

予算・収支計画	40	教育目標との整合性を図り、単年度予算を中期的に計画している	本校の教育理念・教育目標を達成するために、計画的に予算編成を算定している。	4
	41	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	算定した予算・事業計画に基づき、適切に執行している。また、経費削減に取り組んでいる。 予算執行状況を把握し、執行状況を検証している	4
	42	財政について会計監査が適切に行われているか	尾北医師会の公認会計士による会計監査を実施している	4
	43	財政情報公開の体制は整備しているか	情報公開を行っている	4

9. 社会貢献・地域貢献・国際交流

社会貢献・地域貢献	44	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	医師会の学術集会、地域ケア協力センターの事業等で学校の施設、教材等の貸し出しを行っている 愛知県看護教育センター事業に講師派遣を行っている 訪問看護育成研修会を学内で行い、講師派遣している	4
	45	学生ボランティア活動を推奨・支援している	全学年を通してボランティア活動を行っており、地域のイベントにボランティアで参加している	4
	46	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の教育課程へ取り入れているか	地域の企業・行政施設や介護福祉関連の事業所にて演習や実習を行っている 地域で活躍するや職種や委員等の演習協力を得ている	4
国際交流	47	国際的視野を広げるための授業科目が設定されているか	国際看護を科目設定している 基礎科目においては日本国籍外の講師を採用している	4
	48	留学生の受け入れについて応じる体制があるか	留学生受け入れに関する規定がある	4

10.研究

研究活動	49	研究活動は保証されており助言は得られる環境がある	研究活動を行う時間は確保されている 研究活動や研究発表のための支援体制がある 2026 年に学会発表に向けて研究計画を立てて準備している	3.2

【講評】

1. 学校経営について

本校の運営は、公益目的支出計画に基づき、保有する財産を公益のために活用する「公益目的事業会計」の一部として位置づけられている。看護師養成は地域社会に不可欠な人材を育成する公的役割を担っており、単なる営利活動ではなく、社会的使命に基づく教育事業として運営されている。

しかし近年、物価の高騰や人件費の増加により、法人会計は厳しい状況に直面している。特に人件費については、本校が「人が辞めない組織づくり」を重視し、働きやすい職場環境の整備に努めてきた結果、離職率が低く安定した人員体制が維持されていることが背景にある。このように職員数が一定規模を保つことで、人件費総額は自然と高止まりし、支出全体の 6 割を超える状況となっている。財政状況の改善に向けて、授業料・入学

金・施設設備費の見直しを行い、必要な増額措置を講じた。また、入学試験の日程を見直し、試験日を増やすなど柔軟な対応を行ったものの、少子化や進学先の多様化の影響もあり、学生確保は依然として困難な状況が続いている。こうした状況を踏まえ、職員には現状を丁寧に説明し、賞与等の見直しを実施した。職員の理解と協力を得ながら、学校運営の安定化と持続可能な体制づくりを進めている。

今後も本校が担う公益的役割を維持・発展させるためには、経営基盤の強化、学生募集戦略の再構築、職員との協働による組織運営の改善が不可欠である。社会のニーズに応える看護師養成機関としての責務を果たすべく、引き続き健全な運営体制の確立に努めていく。

2. 教育活動について

修業年限に応じた到達目標を明確にしているが、学生が意識した行動がとれていないのが現状である。学生が目標を意識できない背景には、教員によって指導の基準が違うことも考えられる。どのように言語化して学生に伝えるか、これを職員間で共有すると、学生には「何を求められているか」を明確に提示する必要がある。

教員の組織体制の整備について、領域や科目間の連携をさらに強めるには、「どの科目がどの能力を育てているか」 を可視化できるようにする。科目の再編成を行っているため、カリキュラムマップの見直しや活用を行っていく。

変化の激しい時代、地域ニーズや学生ニーズも変化していることを念頭に置く必要がある。変化に敏感で柔軟な対応が求められる。「正しさ」ではなく「目的」を共有する。目的が共有されると、手段に柔軟性が生まれる。“何のためにその指導をするのか”を共通言語となる組織風土を創りたい。